

ライフル射撃協会



茨城国体で堂々と入場行進する本県選手団(茨城県ライフル射撃場)

I 設立年月日

昭和 30 年 4 月 1 日

II 設立の経緯

昭和 30 年春、従前より組織されていた茨城県猟友会射撃部のライフル部門から独立。ライフル射撃協会として発足した。

III 歴代役員

会 長 中山忠造(昭和 30 年～現在)
副会長 歴代茨城県警察教養課長(昭 50 年～)
歴代射撃部保有高等学校長(〃)
多田信一(昭和 63 年～現在)
理事長 茅根秀雄(昭和 29 年～59 年)
多田信一(昭和 59 年～63 年)
村田昭一(昭和 63 年～現在)

IV 競技の普及と推移

昭和 30 年に茨城県ライフル射撃協会が設立され、選手の養成は茨城県出身の大学射撃部の人々や社会人のライフル愛好者で構成されていた。

昭和 27 年、第 7 回東北三県国体に本県チームは初参加した。監督は椿管太郎であった。

その後、伊藤行数、千葉謙介を中心に活躍、ライフル射撃の育ての親として考えられているのは、茅根秀雄(初代理事長・現獵友会事務局長)、中山忠造会長である。

また、ピストル部門については、県警教養課を中心にして県警察官の選手育成にあたったが、主な指導者として、飯村光、仲内祥、小森清、選手としては、井坂久夫、井坂誠次、来栖武雄、仲内祥、山崎隆三郎、折笠祥司らが育ち、昭和 60 年代になると大部正春が活躍した。エアピストルでは国体出場 15 回の市村真が有名である。

高校の射撃部の育成については、昭和 41 年、県立竜ヶ崎一高が県の強化校として指定を受け、校内に 5 射座のライフル射撃場が生まれた。茨城国体のライフル射撃会場として、阿見町にある自衛隊施設内に仮設の射撃場を建設する予定を持ち、その近隣校である竜ヶ崎一高を指定したのがその理由であった。

現在の真壁町にある県営ライフル射撃場については、昭和 38 年、ライフル射撃協会員であった多田信一(現副会長)が個人で 12 射座のエア射撃場を作り、少年の指導育成にあっていたのが基礎となっている。除々に底辺強化が進み、50m のライフル射撃場の必要に迫られ、多田は 10 的程度の射座を作る計画をたてていた。茨城国体が近づいた当時、阿見の自衛隊施設より、真壁の地にという声が、県の国体局、中山忠造会長、茅根秀雄理事長等からあがり、さらに真壁町の強い要望もあり、多田が個人的に拡張して所有していた土地を提供して県営の射撃場とすることに合意を得た。

いよいよ建設が始まったが、工事中、豪雨のため土砂くずれがあり、その補償等困難な問題も生じた。国体開催が近づいた昭和 47 年、ようやく完成、昭和 48 年には全日本社会人大会(国体リハーサル大会)を開催することができた。本協会にとってこの射撃場はホームグラウンドと言ってもいい施設であり、今思い返しても、その後多くの優秀な選手を育てたすばらしいスポーツ施設である。茨城国体の残した施設としては 100 パーセントの成果を得たものとして考えることができる。

昭和 44 年、県立真壁高校が県の強化指定校になった。その射撃部長の稲葉晃一は、選手の育成に全力を注いだ。また近隣の高等学校からも選手が集まりジュニアのレベルが上昇したが、その指導の中心となったのが多田尚克(現協会事務局長)である。多田は、選手たちに、マンツーマンの指導を毎日続けていき、多くの優秀な選手を輩出したが、それが現在までのジュニア育成の基礎ともなっている。昭和 47 年、下館一高に入学した市村忠は、第 27 回の鹿児島国体でジュニアエアライフル立射で 2 位、翌年の千葉国体では優勝、そして第 29 回茨城国体では惜しくも 1 点差で 2 位となったが、高校三年間、国体上位入賞を続けた。下館一高では、来栖行正が射撃部長として指導を続けた。その他、下館二高の柳田

幸子選手、明野高校の高山晴夫選手、岩瀬高校の選手たち、さらに坂本教諭の指導のあった竜ヶ崎一高と、多くの選手が真壁のライフル射撃場で育っていった。多田尚克は、射撃場に家をつくり、選手たちが授業終了後練習に来ると、一人一人手をとっての指導を続けており、ジュニア育成は、射撃場の完成、多田の熱意あふれた指導が相まって成されてきたとも言える。なお、市村忠(下館一高)は、茨城国体における選手宣誓者となったが、国体の選手宣誓者がライフル射撃から選ばれたのは、初めてのことであった。



各都道府県旗の中心に入り、選手宣誓をする市村忠選手(昭和49年・茨城国体)

多くの優秀選手が育ち、国体など大きな大会での活躍が認められ、さらに県内高等学校の射撃部も増えてきたライフル射撃部は、茨城県高等学校体育連盟に昭和53年加盟が認められた。真壁高校の稲葉晃一部長が、高体連の専門部長となった。

ビームライフル(光線銃)は、第35回栃木国体より新種目としてとり入れられた。その大会に出場した林千春(下館一高)は、見事優勝をかざった。しかし、林の優勝がより一層人々を感動させたことに母親の急逝があった。昭和55年10月12日、栃木国体の開会式の朝、林千春の母が帰らぬ人となった。林はすぐに真壁の自宅に戻り、母に別れを告げると、会場に帰り、涙をこらえて射場に立った。林は昭和53年、54年の全国高校チャンピオンであり、実力のある選手であったが、母の死という衝撃的な状況の中での優勝は価値あるものである。林の父、林雄氏は、娘の優勝は母へのなによりのはなむけであったと語った。



ビームライフルの小学生体験射撃

ライフル射撃の普及指導の中心となって活躍している多田尚克は、昭和 55 年より 4~5 校の小学校を巡回し、卒業を控えた 6 年生に体験射撃をさせている。高校 OB を助手としての小学生体験射撃であるが、このようなジュニア育成の方法は、全国でも例がなく「射撃の町真壁」にふさわしいスポーツ指導である。ビームライフルは心のスポーツでもある。是非小中学校にも射撃クラブが作られるようにしたいものである。この小学生体験射撃は 12 年続いている。

身障者にビームライフルの指導

下妻養護学校、水戸養護学校の生徒たちが、毎週 2 回程度ビームライフルの練習を続けている。身障者ビームライフル大会もあり、下妻養護学校が 3 位入賞を果たした。この活動は県特殊教育課のご理解も載しました。

スポーツドクターである千葉医大の霜教授は、身障者にとって、身体機能回復のためのビームライフルは大変効果があり、すばらしいスポーツであると話し、医学的效果のあるビームライフルの実施を全国規模まで広げようと呼びかけている。本県でも多田尚克(日本体育協会コーチ)が、この指導に出ており、茨城の養護学校に取り入れてから 10 年を過ぎた。

スポーツは万国共通のものである。そして、どのような子どもたちにも愛されるものである。身障者のためのビームライフル競技が、今後ますます充実発展していくことを願うとともに、健常者も含めて青少年の育成のための普及を図っていきたい。

V 活動状況及び活躍した選手

本県のライフル射撃は、狩猟の人々によって大正 6~7 年頃より始められたといわれている。昭和 18 年頃、中山忠造(早大射撃部 OB、現会長)等が学生選手として活躍した。国民体育大会には第 7 回(昭和 27 年)東北 3 県大会から空気銃に参加した。国体を中心に、本県

選手の活躍(実績)を記述したい。

第9回国体(昭和29年)から第25回国体(昭和45年)まで、協会の理事長であり事務局長も兼ねていた茅根秀雄が監督をし、選手の育成にも力を注いでいた。

第9回(昭和29年)北海道国体

空気銃 7位 中島 茂

第22回(昭和42年)埼玉国体

三姿勢 2位 高橋弘道

スモールポアライフル伏射 2位 高橋勝彦

ジュニアエアライフル立射 7位 金増信夫

第23回(昭和43年)福井国体

スモールポアライフル伏射 8位 高橋勝彦

第24回(昭和44年)長崎国体

スモールポアライフル三姿勢 優勝 金増信夫

第25回(昭和45年)岩手国体

スモールポアライフル三姿勢 3位 金増信夫

スモールポアライフル伏射 6位 高橋弘道

第26回、27回国体の監督は伊藤行数である。

第26回(昭和46年)和歌山国体

エアライフル立射 4位 鹿志村真

第27回(昭和47年)鹿児島国体

エアライフル立射 優勝 鹿志村真

〃三姿勢 2位 〃

ジュニアエアライフル立射 2位 市村 忠

エアライフル伏射 5位 大野浩司

スモールポアライフル三姿勢 8位 金増信雄

第28回から第41回国体の監督は多田尚克である。

第28回(昭和48年)千国体総合優勝

エアライフル立射 優勝 鹿志村真

ジュニアエアライフル立射 優勝 市村 忠

スモールポアライフル三姿勢 2位 金増信雄

エアピストル 5位 市村 真

センターファイアピストル 6位 仲内 祥

エアライフル伏射 8位 大野浩司

昭和48年度全国高等学校大会・鹿児島

エアライフル 優勝 市村 忠(下館一)

〃	3位	柴山陽一(真壁)
第29回(昭和49年)茨城国体総合2位		
エアライフル三姿勢	2位	鹿志村真
〃 立射	4位	〃
ジュニアエアライフル立射	2位	市村 忠
〃 伏射	3位	大野浩司
エアピストル	3位	市村 真
ライフル三姿勢	6位	斉藤繁美



国体会場となった茨城県ライフル射撃場

茨城国体の役員の多くは真壁町体育指導員の方々であった。また、成功に尽力いただいた当時の真壁林町長、落合助役、国体局の鈴木・白井両氏には心から感謝を申し上げたい。

昭和49年全日本社会人大会・三重

ライフル	6位	斉藤繁美
エアライフル立射	2位	〃
エアピストル	2位	市村 真

昭和49年全関東大会

ライフル伏射	2位	斉藤繁美
〃 三姿勢	6位	〃
エアライフル三姿勢	5位	大野浩司
〃 伏射	2位	〃
エアライフル立射	優秀	鹿志村真

	ジュニアエアライフル	優秀	市村 忠
	エアピストル	優秀	市村 真
	ハンドライフル	3位	小林英雄
第30回(昭和50年)三重国体			
	エアピストル	2位	市村 真
	エアライフル立射	2位	市村 忠
	ジュニアエアライフル	7位	増淵 一
○第31回(昭和51年)佐賀国体		総合6位	
	ジュニアエアライフル	2位	柳田幸子
	ライフル伏射	3位	鹿志村真
	エアピストル	4位	市村 真
	ライフル三姿勢	5位	市村 忠
	エアライフル立射	5位	樫村雅雄
	ピストル	8位	仲内 祥
第32回(昭和52年)青森国体		総合優勝	
	ジュニアビームライフル	優勝	柳田幸子
	ジュニアエアライフル	優勝	〃
	エアライフル三姿勢	2位	市村 忠
	〃立射	6位	〃
	エアピストル	4位	市村 真
	エアライフル伏射	7位	鯉淵 晃
	ライフル三姿勢	8位	樫村雅雄
第33回(昭和53年)長野国体			
	エアライフル	3位	柳田幸子
	ライフル	3位	〃
	エアピストル	4位	市村 真
	ビームライフル	5位	稲葉雄二
	ビームライフル立射	6位	日向 誠
	ピストル	7位	仲内 祥
昭和53年全国高等学校大会			
	エアライフル	優勝	林 千春(下館一)
第34回(昭和54年)宮崎国体			
	エアピストル	2位	市村 真
	ジュニアエアライフル	4位	林千 春
	ライフル	6位	柳田幸子
	ライフル伏射	6位	鯉淵 晃

エアライフル三姿勢	8位	櫻村雅雄
昭和54年全国高第学校大会		
エアライフル	優勝	林 千春(下館一)
第35回(昭和55年)栃木国体		
ジュニアビームライフル	優勝	林 千春
エアライフル伏射	7位	島倉晃雄
第36回(昭和56年)滋賀国体		
エアライフル	優勝	富山浩規
エアピストル	4位	市村 真
ビームライフル三姿勢	6位	大関 操
第37回(昭和57年)島根国体	総合3位	
センターファイアピストル	優勝	折笠祥司
エアライフル伏射	2位	島倉晃雄
〃 三姿勢	3位	市村 忠
エアライフル立射	6位	市村 忠
ジュニアビームライフル立射	4位	佐藤 栄
エアピストル	4位	市村 真
ビームライフル	6位	志田俊介
第38回(昭和58年)群馬国体	総合2位	
ジュニアエアライフル	優勝	郡司光浩
エアライフル立射	優勝	市村 忠
エアピストル	優勝	市村 真
ジュニアビームライフル立射	2位	宮川孝則
ライフル三姿勢	3位	柳田幸子
エアライフル三姿勢	7位	〃
第39回(昭和59年)奈良国体総合3位		
エアピストル	優勝	市村 真
ジュニアエアライフル	2位	郡司光浩
エアライフル三姿勢	3位	市村 忠
ビームライフル立射	8位	伊東敦子
ビームライフル肘射	6位	竹内洋子
第40回(昭和60年)取鳥国体総合2位		
センターファイアピストル	4位	折笠祥司
エアライフル三姿勢	優勝	市村 忠
エアピストル	2位	市村 真
ジュニアエアライフル	4位	伊東敦子

ライフル三姿勢	8位	大屋順
ビームライフルニ姿勢	3位	野田静子
第41回(昭和61年)山梨国体総合2位		
エアライフル三姿勢	3位	市村 忠
" 立射	4位	"
ジュニアエアライフル	5位	宮本陽子
ビームライフル	7位	大関 操
ジュニアビームライフル	2位	柳田 勝
ライフル三姿勢	3位	野田静子
エアピストル	7位	市村 真

第42回(昭和62年)沖縄国体総合2位		
エアライフル伏射	6位	島倉晃雄
ジュニアエアライフル	5位	高山晴夫
ビームライフルニ姿勢	5位	藤枝 操
ジュニアビームライフル	優勝	小松本成人

第42回大会の監督は稲葉晃一、第43回から45回までの国体監督は鯉淵晃である。

第43回(昭和63年)京都国体総合2位		
エアライフル立射	優勝	柳田 勝
ジュニアエアライフル 40発	優勝	松野寿美恵
" 20発	3位	"
ピストル	2位	大部正典
スモールエアライフル	6位	市村 真
エアライフル伏射	3位	市村 忠
ジュニアビームライフル	2位	小松本成人

昭和63年全国高等学校大会

男子団体	2位	真壁 3位下館]
女子団体	2位	下館二 3位竜ヶ崎一
男子個人	2位	小松本成人
女子個人	優勝	松野寿美恵

第44回(平成元年)北海道国体総合8位		
ライフル伏射	3位	桜井理夫
" K20発	5位	"
エアライフル三姿勢	4位	柳田 勝
" 立射 60発	3位	"
ジュニアエアライフル	5位	仁保優子

ジュニアビームライフル	5位	西村 諭
” 20発	7位	”
第45回(平成2年)福岡国体総合3位		
エアライフル三姿勢	8位	柳田 勝
” 立射	優勝	”
ジュニアエアライフル	3位	仁保優子
” 20発	2位	”
ビームライフルニ姿勢	優勝	西村 諭

VI 国際大会について

第42回世界射撃選手権大会

1978年(ソウル)

柳田幸子(筑波大) エアライフル女子立射 4位

世界エアガン選手権大会

第1回出場 柳田幸子(筑波大) 大久保昌子(真壁高)

林 千春(下館一) 大関 操(下館一)

稲葉悦子(真壁高)

第5回1987年

柳田 勝 ジニアエアライフル 2位

団体(柳田、郡司) 優勝

宮本陽子 出場

第6回1989年

監督 多田尚克 コーチ 来栖行正(下館一高教諭)

柳田 勝 エアライフル立射 6位

井川祥江 出場

第8回アジア射撃選手権大会 バンコック

市村 真 フリーピストル 3位

1985年 北京国際大会

市村 忠 エアライフル立射 5位

日韓高校国際射撃大会(1956年~現在)

1年ごとに韓国ソウル大田と日本茨城で交流試合を行い、利用国の親善に貢献している。

アジア大会(中国北京 1990年9月)

柳田 勝 エアライフル立射60発 2位

団体(日本) 優勝